

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年7月17日(2008.7.17)

【公表番号】特表2003-533459(P2003-533459A)

【公表日】平成15年11月11日(2003.11.11)

【出願番号】特願2001-583723(P2001-583723)

【国際特許分類】

A 6 1 K	8/00	(2006.01)
A 6 1 Q	19/00	(2006.01)
A 6 1 K	8/49	(2006.01)
A 6 1 K	9/06	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	9/107	(2006.01)
A 6 1 K	9/113	(2006.01)
A 6 1 K	9/14	(2006.01)
A 6 1 K	31/195	(2006.01)
A 6 1 K	31/353	(2006.01)
A 6 1 K	31/37	(2006.01)
A 6 1 K	31/4172	(2006.01)
A 6 1 K	36/18	(2006.01)
A 6 1 K	47/16	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/06	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/08	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	7/48	
A 6 1 K	7/00	D
A 6 1 K	7/00	W
A 6 1 K	9/06	
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 K	9/107	
A 6 1 K	9/113	
A 6 1 K	9/14	
A 6 1 K	31/195	
A 6 1 K	31/353	
A 6 1 K	31/37	
A 6 1 K	31/4172	
A 6 1 K	35/78	C
A 6 1 K	47/16	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	17/06	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/08	

【手続補正書】

【提出日】平成20年5月14日(2008.5.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 エラグ酸、その塩、その金属錯体、そのモノエーテル又はポリエーテル、モノアシル又はポリアシル誘導体及びヒドロキシル基から誘導したそのカーボネート又はカルバメート誘導体の、局所適用における汚染防止化粧品としての使用。

【請求項 2】 エラグ酸、その塩、その金属錯体、そのモノエーテル又はポリエーテル、モノアシル又はポリアシル誘導体及びヒドロキシル基から誘導したそのカーボネート又はカルバメート誘導体の、毒性気体を捕捉する化粧品及び／又は重金属キレート化粧品及び／又は多環式芳香族炭化水素によって生じる接触過敏症を阻止する局所適用における化粧品としての使用。

【請求項 3】 エラグ酸、その塩、その金属錯体、そのモノエーテル又はポリエーテル、モノアシル又はポリアシル誘導体及びヒドロキシル基から誘導したそのカーボネート又はカルバメート誘導体の、局所適用のための汚染防止化粧組成物を製造するための、又は製造における使用。

【請求項 4】 エラグ酸塩が以下を含むことを特徴とする、請求項 1 ないし 3 の 1 項に記載の使用：金属塩、特にアルカリ金属又はアルカリ土類金属の塩、例えばナトリウム及びカルシウム塩、アミン塩、例えばメチルグルタミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、コリン及びビス－トリエチルアミン塩、アミノ酸塩、特に塩基性アミノ酸、例えばアルギニン、リジン及びオルニチンの塩、亜鉛及び銅との金属錯体、及び 2～22 の炭素原子を含む飽和又は不飽和アシル基を含むモノアシル及びポリアシル誘導体、好ましくは、これらのアシル基は酢酸、パルミチン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、アラキドン酸、ステアリン酸、ブラシジン酸、エルカ酸、ベヘン酸及び（全て Z）－5, 8, 11, 14, 17－エイコサペンタエン酸であり、モノエーテル又はポリエーテル誘導体であって 1～4 の炭素原子を含むアルコキシ誘導体、又はエラグ酸の一又は複数のヒドロキシル基と糖又は糖鎖との縮合誘導体、特に、3－メトキシ－エラグ酸又はその糖、例えばグルコース、アラビノース、ラムノース及びガラクトースとのモノエーテル又はポリエーテル誘導体であるもの。

【請求項 5】 組成物がさらに少なくとも一つの他の汚染防止化合物を含むことを特徴とする、請求項 3に記載の使用。

【請求項 6】 組成物が水及び／又は任意に化粧品として受容可能な有機溶媒から成る化粧品として受容可能な媒体も含むことができることを特徴とする、請求項 1 ないし 5のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 7】 有機溶媒を好ましくは以下から選択することを特徴とする、請求項 6に記載の使用：モノ官能性又はポリ官能性アルコール、任意にオキシエチレン化したポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコールエステル、ソルビトール及びその誘導体、ジアルキルイソソルビド、グリコールエーテル、ポリプロピレングリコールエーテル及び脂肪エステル。

【請求項 8】 有機溶媒が組成物の全質量の 5%～98% 存在することを特徴とする、請求項 6 又は 7に記載の使用。

【請求項 9】 組成物がさらに少なくとも一つの脂肪相を含むことを特徴とする、請求項 1 ないし 8のいずれか 1 項に記載の使用。

【請求項 10】 請求項 1 ないし 9のいずれか 1 項に記載の組成物を皮膚に適用することから成ることを特徴とする、汚染の作用に対して身体を保護する化粧処置方法。